

11 番 上野議員。

上野議員／おはようございます。

きょうは、大勢来ていただいて、最後の一般質問できることを幸せに思います

私は 31 年間、本当にいろんなことに携わってきたことを嬉しく思っています。

皆さんの声を十分に市民の皆さんの声を届けられなかったなという思いはありますが、自分なりには一生懸命頑張ってきました。

11 年間、福祉と教育について、思いを述べてきたように思います。

市民の皆さんと本当にたくさんのお礼と、感謝の言葉を添えながら最後の一般質問をさせていただきたいと思っております。

よろしくお願いします。

やはり、福祉と教育で締めくくりをしたいなと思います。

始めに、福祉の問題ですが、先ほど平野議員より、たくさん問題がでましたが、話し合いをされておりますが、福祉の問題はきりが無い問題。

これも、解決していかないといけない、厳しい課題でもあります。

まず、わが武雄市は、福祉の中でも、きょうは高齢者の件について、絞っていききたいと思います。

では、われわれがこれから取り組んでいかないとならない、武雄市の高齢化といいたうか、状況はいったいどういうものなのか。

実態を、踏まえながら、質問したいと思います。

すみません、小さくて見にくいかと思いますが、市役所の方にきていただきました。

これを見ていただければ、平野議員のときも出ていましたように、本当に大変な高齢化になっていくというのが、おわかりだと思います。

まず 1 人暮らしの高齢の世帯を見て下さい。

人数としては 2199 人ですが、4.34%という高い数字が独居老人。

高齢者のみの家族、3258 人で、6.4%。

それぞれ町村によって、違いがありますが、全体を見た場合、厳しいなど。

また、われわれのまわりを見ましても、こんな状態なのかなと思います。

この表をみてください。

65 才以上の人口。

私も入りますが、1 万 3222 人。

高齢者率は武雄町 21.46、橘町 31.23、旭町 23.7、若木 31.45、武内 32.61、東川登 31.71、西川登 31.61、山内 28.06、北方町 27.77。

平均して、26.07%となっています。

日本全国、我が市も漏れず、高齢化社会に進んでいると思っています。

実態を踏まえて、いろんな事業をしていただいておりますが、今の現在のところ行政として

は、どういうふうな取り組みをしているのか、お聞きしたいと思っています。

議長／樋渡市長

樋渡市長／細かい話はあとで部長にいたさせますが、果たして高齢化率が悪いのかという議論をした方が良いと思う。

さっき副市長とも話をしましたが、われわれが小さい頃、世代が違いますが、小さいときですよ、60歳というと。

これ以上はいいませんよ。

ということなんです。

びっくりしちゃう、郷ひろみって何歳かわかりますか？

ヤノキョウコさん、62歳です。

果たして磯野波平さんって何歳か、想定上。

58歳です。

あの当時の磯野波平さんの58歳と、郷ひろみさんの58歳を考えたときに、今言う高齢化の意味が違うということ。

大腸ガンを患って克服した、ジャーナリストの鳥越さん。

70越している。

全員がそうとは言えないのですが、高齢化に加えて元気じゃない方を中心に議論をしたい。単純に高齢化率がどうかと考えたときに、30年前の、乱暴な言い方すると、60歳と考えたときに、今でいう75とか80だと思うんですよ。

うちの親父なんてびんこしゃんこですよ。

70も超しています。

気も若いし、いまだに働いています。

それを考えた場合に、昔と少しかえて議論しないといけない。

昔のまんま、というのはどうかと思うです。

部長のとうべんについては、不幸にして元気じゃない方もいらっしゃる率が高い。

その観点で高齢者の中に多いのは重々承知していますので、その観点で答弁をしたいと考えています。

議長／山田くらし部長

山田くらし部長／高齢者に対する、事業といたしまして、介護保険とかは別として、市が直接的に行っている部分を紹介したいと思います。

生きがい対応型デイサービス。

いろんな健康チェックなど、そういうふうな事業のデイサービス事業。

それから、高齢者の方にバランスのとれた食事を配達して、安否を確認するということで、配食サービスの事業。

定期的に高齢者の方の安否を確認するということで、愛の一声運動の企業ですね。

緊急時に、例えば、具合が悪くなった、そういう方につきましては、緊急通報装置の対応事業ということで、直接的な部分はやっています。

同じ社会福祉ということで、社会福祉協議会が事業を実施していますが、市の方から補助を出しながら、実施しています。

ボランティア団体等が行っております、いきいき・ふれあいサロン事業とか、ボランティア団体で行っております、独居老人の配食など、そういう事業を展開しているところです。

議長／11 番 上野議員

上野議員／今市長の話がありましたように、年齢と健康というのは差がありますが、きょうは、弱い方にしぼって話をします。

いま、部長のほうより答弁ありましたとおり、いろんなことを市としてもやっています。

私もいろんなことに関わっています。

きょうはここでお願いと、どう考えてらっしゃるかをお聞きしたい。

先ほど出ていました、いきいきサロン。

それぞれの地区の交流サロンについて、おたずねします。

なぜかという、市長がおっしゃったように、元気老人は行きたいところに行くし。

私も 70 過ぎております。

昔だったら手をついて家にいたと思いますが。

そういう人、弱い方たち、その方たちは、今おっしゃった事業にありましたように、行政のほうから社協に助成をして、社協からふれあいサロンに助成となっていると思います。

そのサロンの状態についてです。

今、元気老人が多い反面、高齢者も多いです。

行政のほうでも、なんでもかんでもするのは、むりだと思います。

官民一体となって、私たちも力を添えながら、行政と一緒にやっていかなくてはならないんじゃないかと思っています。

それが、高齢者のふれあいサロンが、私は一番大事だと思っています。

私の町、北方でも 12 カ所。

それぞれの地区でやっています。

弱い老人対象なので、1 カ所にというわけにはいきません。

そこに行く手段も要りますし。

これは、それぞれの地区に、小さいところにたくさんできるのが、1 番良いと思います。

そしたら、歩いてでも、どんなにしても行ける。

それでまた、そこで暮らせる。

私は、ときどきサロンにお邪魔します。

市長もいらしてくださいます。

本当にそこでは、地域の人や地域の人たちと地域の中で、明るく楽しい笑い声と、1日しています。

とっても楽しみにしています。

こんなサロンがどこにでもできたら良いな。

やってるひとは、ボランティアです。

女性のかた。

そして、来てくださる方たちは、それぞれのボランティアで食材を持ち合ったり、お金を集めてはいますが、自分たちで持ってきて、大変ねえとか、さっき嬉しかったよとか。

その気持ちでボランティアをしています。

その時にいろんな人たちとボランティアの話をしたときに、今はわれわれの年代が多いですが、喜んでくれたけん良かったね、でもこのあと、誰がしてくれるんやろか。

年寄り減るということはなかとやからね、誰がやるのかね、という心配を持っている。

サロンの来ている方の声ですが、私に言われるんです。

議員のはしくれと思ってもらって、こんなしてくれんか。

報酬あげてくださいと。

いえいえそれは違うとよ。

ボランティアで違うとよ、それは、皆さんの食事代よ。

そして時々は材料費だよ。

あの人たちには一銭もでなかよ、とはなしをしたことがある。

今本当に上手くまわっています。

そして次々できてきてます。

社協さんも進めています。

社協からは、北方のことであれですが、年に2万円です。

それは、いろんな講師の先生を呼んだり、体操の先生を呼んだり、謝礼などに使っている。

とにかく、ボランティアでしている。

考えたときに私も、今のところはお世話できるほうですが、反対になったとき、誰があとを継いでくれるかな。

やはりおばあちゃんたちがおっしゃるように、何か行政から助成をしてもらい、そこを盛り上げていけたらなと、思っているんです。

他にもありましょうが、私はサロンを広げて、地区地区にサロンの花を広げる、その中でみんながいきいきと住める地域になるのではないかと思います、いかがでしょうか。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私も何度か、上野議員さんと一緒にふれあいサロンに行って、ボランティアの皆さんが頑張っているのは、この場を借りて感謝を申し上げたいです。

今後どうするかは、私も賞味期限が間もなく切れますので、こういうふうにしたい、というのは避けたいと思います。

私の考えは、こういう性格なので、ストレートにできることはできる、やれないことはやれないと言いますので、議員とは最後の機会なので言いたいが、私は、人件費をたてるのは反対です。

人件費に当てた場合、次の世代の方が、人件費を目当てにする。

あるいは、それで補えるということでは、いらない、とても思えない。

ボランティアの皆さんが、自分たちの寝食を削ってやってるのは、ボランティア精神に基づいて、人様のために、あるいは恩返しのためにやりたいというのを金銭的に報いるのは違うと思います。

金銭的に報いるのは、市民の税金です。

われわれが予算を教示するのは。

全部否定するわけではないが、それで議会の同意をとるのは、しんどいです。

そうはいつでも、ボランティアの人たちで負担で成り立っているのは、重々承知です。

今問題なのは、手出しがいつてるのは、どういったところに手出しされているかは、ちゃんと社協にお任せすることなく、私どもできちんと聞いていくことが必要があるだろうと思っています。

足らざる部分については、わたしもこういう性格なので、ちゃんとやります。

ですが、参加してくださるからといって参加費をお渡しするのは、おそらく、僕もボランティアをやったことあるが、いただいたことあるんですよ。

でも、それで嬉しいと思ったことはない。

わたしにいただくお金があったら、そのお金を、実際困っている方々に与えて下さい、といったことがあるんです。

おそらく多くの方々はお思いだと思いますので、そこは足らざる部分は、精査したいと思います。

ですので、向かう方向は、見える風景は上野議員と一緒にだと思います。

そこで何をすべきかでいうと、足らざる分を補助するのが、行政に対して求められていることと認識しています。

議長／11 番 上野議員

上野議員／市長がおっしゃること、よく分かります。

今されているボランティアの方は、心をもってされています。

報酬求められていません。

これは、私が考えて提案しているところです。

いまされている、ボランティアの方が報酬をくださいと言う人は1人もいません。

その心に報いるために、私はどうすればいいのかなと。

報酬、お金というのは、良いような悪いような感じですが。

そういう気持ちで、気持ちは一緒だと思っています。

市長がおっしゃるように、サロンを開いてから何年もなるとは思いますが、話し合いの場はなかったように思いますので、そこに従事する人、社協、行政と話し合いをされて、ここはこう、としていただければ、続くものだと思います。

ボランティアの奉仕、口に出したくないようなものですが、ボランティアについて考える時代になってきたのではと思っています。

ここでしっかり約束できれば私はそれで。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私も賞味期限切れになるので、お約束はできませんが、思いは、議員の質問を聞いて、ボランティアの位置づけを議論しないと行けないのは同じです。

それとともに、確かにわれわれも任せっぱなしにしてたのがあるんですね。

私も上野議員さんと何回も行ったじゃないですか、ふれあいサロンに。

お客さんみたいに行ったのは間違いだと、議員のご質問をいただいて思いました。

いずれにしても、三社協つくる必要があると思います。

すなわち、あれですよ、サロンの運営されるかたの代表者、代表でなくても良いですが。

あと、くらし部と、中心とする行政と社協。

3社協は必要だと思います。

議会の多くの皆さんも同じだと思っています。

意見の共有ですよ。

すりあわせは、立場を越えて行う必要があると思ってますし、大事なものは3プラス1だと思います。

1が大事で、利用者の方の意見も、協議会の場で伺いたいと思います。

その必要性は、十分に認識しています。

議長／11番 上野議員

上野議員／いま市長がおっしゃったような方向で、新年度になってから正しく生み出していただきたいと思っています。

楽しみにしております。

私も一般市民として活動に参加したいと思っています。

次の質問に移りたいとおもいます。

次は教育について。先ほど平野議員のときもありましたように、タブレット導入、ICT 教育は賛否両論あります。

新しい方向に進むときはいろんなことがありますし、進めていくにはたくさんのエネルギーが必要です。

私も長い間、教職に従事していましたが、私もアナログですので、チョークと黒板があれば教育ができると安易な気持ちでいました。

今、時代は変わったと思います、一般質問を聞きながら思いました。

教育とは本当に大事なことです。

教育基本法にも書いていますが、福祉の向上を目指し、貢献できる人間を育成、人格形成を大きな目的です。

その目的に向かって、ICT 教育を取り入れていく。

聞いたときには全面的に出ることですがそうでない、人間形成。

そう思っているときに、私は初めは、ICT とはいいもんか、いらない、なくても教育は出来ると思っていましたが、先日、図書館で市長と教育監とのトークショーがありました。聞いているうちに、時代の流れというのは、先ほど市長がおっしゃっていたように、世界に出て行くために羽ばたく子どもたちを育てるためには、これは避けては通れない時代になった。

そのときに私の不安は、だいぶ解消されました。

まだまだ一般の方は ICT 教育に対しての不安を持っています。

明るい未来に向かって、私達は進んでいかなければならないと思います。

そこで、代田教育監たちが先進地のほうに視察に行かれました。

一部ですが、報告していただいて、最終的に教育というのは、こういうことを目指していると、報告していただきたいと思いました。

その前にどうしてその国を先進地として、オランダに行っていましたか。

そこで、なぜ先進地としてそこを選ばれたのか。

報告をお願いしたいと思います。

できるだけ映像で詳しくお願いします。

議長／代田教育監

代田教育監／今平野議員から、ご質問があったオランダ。

すみません。

議長／上野議員。

代田教育監／上野議員より、なぜオランダなのかと、という質問がありましたのでまずその件について話します。

先月 2 月 9 日から、約 1 週間、オランダに視察に行つて参りました。

世界の中ではオランダが世界の最先教育国という認識が高まっている。

大きな指標として、昨年度ユニセフが出した、子どもの幸福度ランキングでは第 1 位でした。

特に象徴的に言われているのは、子どもが孤独を感じる、この割合が、世界各国みていくと、日本は 30% の子どもが孤独を感じるという回答をしています。

その一方でオランダは世界最小、3 % の子どもしか、孤独を感じない、それはどういう教育なのか、こういうことが全世界で注目されている。

もうひとつ、オランダに行った理由はひとつあったんですね。

武雄の蘭学だからです。

武雄市図書館、歴史資料館で、現在九州の蘭学、武雄市の蘭学ということで、展示会がありました、私も行きました。

武雄の地が、ヨーロッパ、オランダを中心とした、先進諸国を、叡智(えいち)を吸収して、武雄の蘭学が日本のいろんな文化を変えていったことから、なにかオランダには縁があって、先進諸国から何か学べると思ってオランダを視察国として選びました。

4 つの小学校に行ってきたんですが、そのうちの 2 校が、スティーブ・ジョブズスクールという学校です。

全員に 1 人 1 台、タブレット端末が配られます。

先ほど孤独が少ないというデータがあったんですが、一斉型授業、先生が黒板の前で生徒に一方的に伝えるという授業は一切行いません。

すべて授業は、自分たちで選んで学び合い、教え合うというスタイルになっている。

こういうことができるから、自分の知識は時間と場所を選ばず、自習室や家庭や、いろんな地域の場所で、タブレット端末を使って、吸収しよう。

そして学校は社会性や、人間性を育む場にしよう、こういうコンセプトがしっかりしているので、いじめも少ないし、学力も向上していく。

こういう結果のスタイル。

このときに iPad が非常に有効に使えていると思いました。

もう 2 つの小学校は、ピースフルスクールというプログラムを導入。

現在学校は、オランダで 600 校、急速に発展した手法です。

何をやっているかという、先ほど話し合いがうまくいっているといいましたが、向こうの人にいわせると、話し合い活動なんか、放っておいて、上手くいくわけがないと認識してください。

さらに言うならば、民主的な態度は、子どもの時からしっかりしないと、放っておいてはだめなんだ、ちゃんと育てないと、ということで、4～9歳の子がケンカの仲裁について勉強しているシーン。

これは、ロールプレイングという手法で、あなたが、私の帽子をとったでしょう。

いやいや、興味があったから、一人の女の子が答える。

それに対して、ケンカの仲裁をロールプレイングしている。

あなたたちは感情的になっていませんか、場所を移したほうが良いですか、そんなところまで、4歳の子どもたちが話し合っている。

いろはを教わっている。

こういうプログラムを積み重ねることによって、スティーブ・ジョブズスクールで1つの成功例として言われている。

人間性社会性をプログラムとタブレット端末を有効に使って、最先端の教育。

さきほど平野議員から、勝者と敗者を作るんじゃないかというご指摘がありましたがオランダの教育は、両方ともウィンウィンをつくる関係。

ケンカ両成敗ではなくて、仲裁をしてお互いが納得する教育をしているので、勝ち組負け組をつくらない、こういう展開を手法と、具体的なやり方まで聞いてきました。

最後の結論なんですが、武雄市で始まっている、タブレットの配布、反転授業の知識を、家庭で蓄えてきて、学校で学び合い学習をすること、方向性が間違いないと確信しました。

こういう方法で世界は進んでいるし、日本の教育で、こういった方向性に向かうのは間違っていないと確信しました。

その一方で、オランダもここにいくまで、非常に苦労したというのは伝えてくれました。

やはり先生方がタブレット端末についていけない、とか保護者の反対行動があった。

10年かけて乗り越えてきたと校長先生、教育委員会の話を聞きました。

キーワードはオープン、いろんな人に公開する。

みんなと一緒に、こういう課題があるから、これを解決する。

保護者市民が一緒になって、進めていくのが、10年の結果ですよというような話をした。

私どもも、道のりは遠いけど、必ず子どもたちは、豊かな学びができる、自立できる子どもたち。

1人も落ちこぼれをつくらない教育が、こういう形で実現していかななくてはならない。

そういった思いを強くしたオランダでした。

きょうは、4枚くらい。

議長／11 番 上野議員

上野議員／今、何枚かのお話しを、少しおわかりになったかと思いますが。

私が目指す教育というのは、こんなものかな。

私も初めて見ましたので、お聞きして、なかなかすぐ自分の気持ちの中に入ってこないと思います。

ゆくゆくはこうなるのかな。

これが本当の民主主義の子どもたちの教育なのかなと。

これに向かって、先ほどおっしゃったように、10 年かかったと。

本当に教育というのはそれほど大事で、また長くかかっていくものかなと思います。

ありがとうございました。

これからもいかしていきたいと思います。

こういうことを受けて、いろいろお聞きしたいですが、教育長にお聞きします。

これからの教育を、いろんな教育をどのように思っているのか、十分にお話しをしてほしい。

議長／浦郷教育長

浦郷教育長／説得力のある代田教育監の話でしたので、ご理解いただけたと思いますが。

今朝からの話題になっている、ICT 教育と、人格の形成を対立的に見やすいような意見を、説明会等でもお聞きしました。

今の代田教育監の話にもありましたように、ICT が目指しているのは、どの子どもどのくらいわかっているか、一人ひとりをしっかり育てるだということをご理解いただけたんじゃないかと。

併せて、教室では学校ではそれぞれの意見をもちよって、人格を磨いていく。

そういう ICT 教育の根幹の部分をご理解いただきたい。

それらを踏まえて、これから本当に激しい変化の社会でありますし、これからもっと進むであろうと想像されるわけです。

とにかく、たくましく生き抜いてくれる子ども達を育てたいというのが根幹であります。

そのときに、それぞれの小中、保育園、幼稚園があるわけですが、その環境をいかに整備してくかが、わたしたちの仕事だと思っています。

中には、学校には行きたくないという子どもさんもいますし、あるいは、障がいをもたれた方、あるいはいじめであつたり、課題はいろいろあるわけですが、それらに、丁寧に対応しつつ、できることをやっていくと。

それが1つは ICT でありますが、土曜日等の開校だったり、そういうことを含めて、取り組んでいくということ。

よく言われる、理想としては、武雄市で子育てをしたいという方が、どんどんできていただけるような、状況を、結果的にそういう状況を高めるというのが私どもの仕事だと思っています。

ここ数年、特に感じているのは、北方町の場合もそうですが、家庭や地域の方が、非常にうまく関わっていると強く感じている。

今年度も必要だと思いますが、夏休みの教室。

ほかの学校も、いろんな形で関わっていただいて、子ども達をゆれが少ないように、あるいは支える、あるいは先輩として教える、いろんな形で関わっていただいている。

環境としては学校もそうですし、家庭地域であっても、そういう環境を整えておく。

そういう中で、たくましく生き抜く子どもたちを育てたいと、いう考えでございます。

議長／11 番 上野議員

上野議員／ありがとうございました。

では教育長は、どういう考えか皆さんおわかりになったと思います。

最後に、市長にお伺いします。

教育に命をかけるとおっしゃった。

4月から多分市長になりますので、どういうふうに教育に命をかけるのか。

教育のあり方というのも、全国でも、教育長の任命とかいろいろあって、みなさんも不安を感じています。

そういう中、今代田先生の、先進校の報告。

教育長の具体的ないろんな方策、市長として、どういうふうにこれから教育の改革をしていっていただけるのか、お聞きします。

議長／樋渡市長

樋渡市長／私は、保育園、中退です。

小学校は不登校ど真ん中。

中学校は、激しい反抗期で、中学校も行ったか行かんか。

高校も、2年生のときからいけなかった、体が動かなかった。

大学のときは寝たきりです、床ずれもできました。

ですので、私は全部公教育、浪人したときは、仙台にいきましたが。
それを除けば、保育所から、大学まで、公教育。ある意味珍しい人間です。
そのときに、公教育というのは、私の体験で、やっぱり一人ひとりにあっとらんと思った。
だんだん先生たちも忙しくなってくるし、やはり、向き合ってもらいたいなと思ったけど、
学校の先生は、教育委員会に出さないといけない書類とか、いろんな教育以外に対応せん
といかんとか、増えてきた。

僕が一番嫌だったのが、選択肢。
この3つのうちから、正解を選べというのは一番嫌だった。
わからん。
鎌倉時代、いい国つくろうって関係ないじゃないですか。
しかも間違いだった。
良い国ではない、悪い国じゃないですよ。
1192年じゃないですよ。
一番問題なのは、高校のときに悟ったんですが、正解がない時代に、なんで正解を与えられるのか。
過去の正解を解かないといけないかというのが思ってた。
僕は思っていた。
暗記中心。
そんなの機械がやってくれればいいじゃないですか。
ここのコンピューターが僕よりよっぽどいい。
ですので、そういうふうに、昔の明治のとき、あるいは江戸幕府のときの教育型、社会情勢が変わったにも関わらず、ずっと同じ。
代田先生から教わりましたが、黒板でも、明治のときからありましたっけ。
違いましたっけ。
そうですね。
あわせてくれました。
明治か江戸か知りませんが、どんどん変わっている。
社会の変化に、教育が変わっちゃいけないところはあるが、変わらなきゃいけないところは変わらないといけない。
正解至上主義。
これからの世の中は、自ら正解をつくっていく。
正解を解くんじゃなくて、白だから白とかじゃなくて、これからは乱暴な言い方ですが、白を黒と言い切る。

いい意味ですよ。

それが、それがグローバルな競争の社会をしなやかに、かしこくたくましく乗り切っていくということだと、僕は思います。

議員の皆さんも、そうじゃないですか。

白がピンクと言ったり、ピンクを黒と言うたり。

みんなこういうふうにかくましく乗り切ってるじゃないですか。

僕はそういう側面は大事だと思います。

それを楽しく学ぶのが、これからの特に小学校の役割だと思います。

きょうの佐賀新聞見て驚きました。

最近の佐賀新聞、良いですね。

これ、イノコさんという人と、きのう僕対談をしました。

県内の4カ所と、武雄市図書館で特別連動企画をして、イノコさんも同じことおっしゃってます。

これからは自分たちが正解をつくっていく時代。

自分たちがクリエイティブな発想して、どんどん。

しかも1人だけじゃだめだと言ってる。

チームで乗り切ると。

これを、これからは自分たちは目指す必要があると。

しかも自分たちは、いろんな本に書かれてインタビューでも答えていますが、落ちこぼれという言葉が、良いのか悪いのかわからないが、落ちこぼれをつくらない、というのも、これからは自分たちの活動を通じて世の中を引き上げないといけないとおっしゃっていたので、ぜひ、県内4カ所、武雄市図書館は、見ればわかるとあるんですよ。

生み出す人間と、子ども達がものすごくこれに反応している。

驚きます。

デジタルの水族館で、自分の書いた魚をかざすだけで、書いた魚が泳ぎまくる。

あるいはそこに象形文字って。

鳥っていう象形文字に触れると、何となく鳥に。

触れると、本物の鳥が飛んでくる。

そうすると象形文字と鳥が、暗記じゃなくて体感でわかる。

社会がそういうふうに変わってる。

われわれはそういう機会を積極的に与えないといけないと思います。

これは武雄市だから、できると思っています。

議会が、物凄くそこが、機会を用意しようという、上野議員を始めとして、議会がそういう場を今までつくってくださったことには感謝をしたいと申し上げたいと思いますし、タブレットを小中学校でというと、普通の多くの議会の人は反対しますよ。

しかし、諸手を挙げて賛成して下さったじゃないですか。
僕はその議会に深く感謝を申し上げたいと思っていますし、政治の力が、介入じゃなくて、教育のこれから楽しい、私がまた、再入学をしたい。
そういう小学校を。
月曜日、楽しみって。
はよう行きたいというような、小学校になるように、われわれとしてそういう環境作りを命をかけて取り組みたいとそうに思っています。

最後に言いますが、代田教育監が、孤独を感じる、オランダが3%、うちは0%を目指してね、そこが、私がこれから目指す、教育。
学力より、僕は学力日本一などひと言も言ってませんよ。
数字が0になる。
孤独を感じる率が0になるような、教育を目指したい。
学力に結果としてつながると、僕は考えています。

議長／11 番 上野議員

上野議員／ここでできませんが、大きな拍手を送りたいと思います。
わたしもそういう教育を目指しています。
長くかかるかもわかりませんが、ぜひそういう学校、環境にしてほしいと思います。
そのためにはいろいろやりますが、私はタブレットの話をしたとき、議会が諸手を上げてと言いましたが、半信半疑で手を上げました。
皆さんと一緒にです。
よくわからなかったんです。
でもそういうものなのか、そうなるのかな、とずっと、今は違いますが、勉強している話を聞きながら、そうならなくてはいけないのか。
そこを全国に先がけてわが武雄市がしたことは素晴らしいことだと。
世界に向け、明るくしなやかに羽ばたいていただいて、人間形成をもとに飛び出していったら、武雄市に帰ってこようかな、ふるさとを大事にして帰ろうかな、という人間を育てていきます。

私も一般市民になりますが、大いに期待しながらあらゆる所で活動します。
長い間お世話になりました。
行政の皆さまのありがとうございました。
私はこれをもって、一般質問を終わります。
どうぞ、がんばってください。

* 拍手 *

すみません、最後に、全国住みたいナンバー２、トップを目指して４月より樋渡市長、がんばってください。
終わります。

* 拍手 *

議長／以上で、11 番 上野議員の質問を終了させていただきます。